

査定の透明化による流通革命

～ ガリバーインターナショナルの中古車ビジネス ～

1994年、羽鳥兼市（はとりけんいち）氏は、中古車買い取り専門のガリバーインターナショナル・コーポレーション（現ガリバーインターナショナル）を設立しました。高校卒業後に設立したクレーン車を扱う会社が、詐欺行為にあって倒産してしまうという試練を乗り越えてのことでした。

当時は、「中古車ビジネスをやっています」と自己紹介すると、いつも相手の反応が気になりました。高品質の割には、業界全体に不透明なイメージが付きまっていたからです。同じ年式

同じ車種でも、業者によって価格のばらつきが大きく、事情をよく知らないお客さんからは安く買いたたく業者も目立っていました。

羽鳥氏には、中古車ビジネスを近代化し、「車の流通革命」を起こすという夢があり、

透明な取引慣行を確立したいとの強い思いがありました。

そして1999年、中古車オークション市場での落札データなどを活用し、コンピュータによる「自動評価点付与システム」を完成させました。

店頭を持ち込まれた車をチェックし、本部のコンピュータに車種、年式、走行距離、傷の有無などを入力すると評価点が出るシステムになっており、その結果は数十秒から数分で店頭へフィードバックされるため、全国どの店舗でも価格にばらつきがなくなりました。

業界の古い体質を、新しい発想と独自のシステム構築というイノベーション（革新）によって、様変わりさせることができたのです。

